

令和3年4月22日

国立大学法人 福島大学

公立大学法人 福島県立医科大学

## 「がんの放射線塞栓療法に関する福島大学と 福島県立医科大学の共同研究開始のお知らせ」

福島大学と福島県立医科大学は、肝悪性腫瘍に対する新規の治療法の開発を目指して放射線塞栓療法の技術開発を共同で進めることになりました。令和3年度の日本医療研究開発機構（AMED）の「革新的医療技術創出拠点プロジェクト橋渡し研究戦略的推進プログラム」に採択され、この支援を受けて共同研究が始まりました。放射線塞栓療法とは、放射性ビーズを人体に投与し、悪性腫瘍部位の血管を塞栓し、放射性ビーズから放出される放射線を用いて局所内部放射線治療を行う方法であり国内初の新しいがん治療法の試みとなります。海外では、既に先行していくつかの薬剤が製造されていますが、国内では様々な事情により遅れていました。

今回、福島大学（高貝慶隆 教授）と福島県立医科大学（研究代表：鷲山幸信 准教授）が中心となって、この技術開発を進めることになりました。高貝教授が福島大学で廃炉研究のために開発した放射性物質を閉じ込める技術と、鷲山准教授が福島県立医科大学で実施している医療用の放射性物質を製造する技術を融合することで国内での新たながんの治療法の技術開発を目指すものです。

### 【研究実施体制】

研究代表：鷲山幸信（福島県立医科大学 先端臨床研究センター 准教授）

専門：放射線科学、放射化学

研究分担：高貝慶隆（福島大学 共生システム理工学類 教授）

専門：分析化学、物質科学

志賀哲（福島県立医科大学 先端臨床研究センター 教授、医師）

専門：放射線医学、核医学

右近直之（福島県立医科大学 先端臨床研究センター 助教、診療放射線技師）

専門：放射線技術学、核医学

研究協力：伊藤 浩（福島県立医科大学 放射線医学講座 教授、医師）

専門：放射線医学、核医学

【研究概要】

福島大学が廃炉措置研究で開発してきた放射性物質を閉じ込める材料を、医療用の放射性物質に応用してがんの放射線塞栓療法に活用できる技術・材料を開発する（図を参照）。福島県立医科大学は、先端臨床研究センターが保有する放射性物質を製造する技術を活用して、実用化研究を進める。

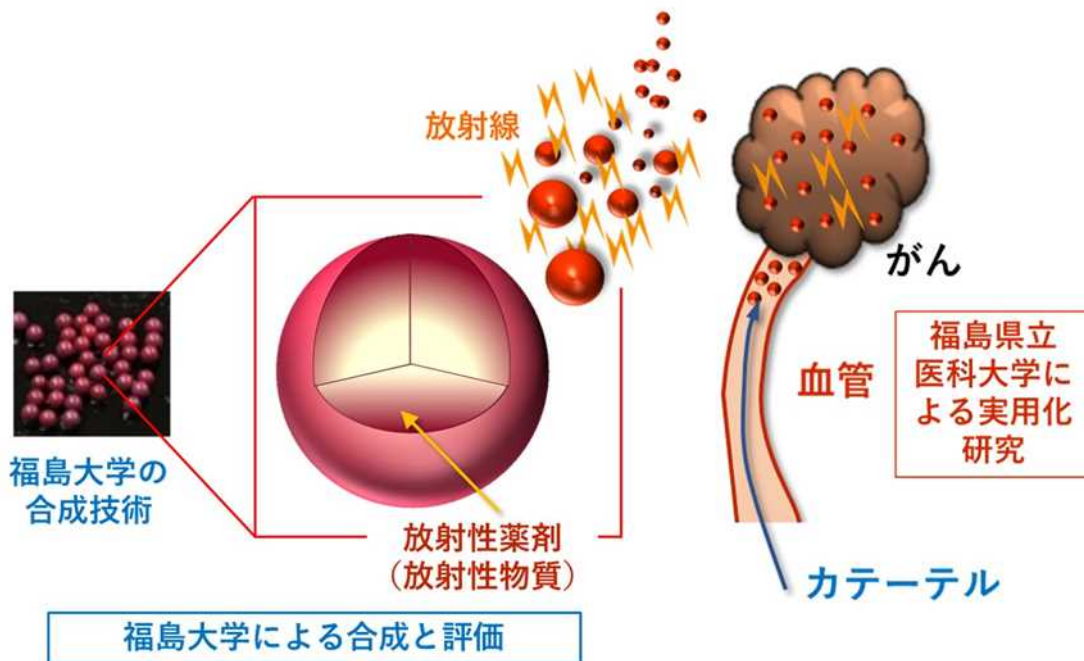


図 がんの放射線塞栓療法のイメージ